

町史だより

～七冊目まで
出ています～

西原町史は、平成十五年に七冊目となる第七巻・資料編六「西原の産業」が発刊されました。

これまで発刊された「西原の文献資料」「西原の戦時記録」「西原の民俗」「西原の考古」「西原の移民」「西原の民話」と同じく「西原の産業」も、町民みなさんの協力のもと、編集されてきました。

産業編は、各種産業の起源や変遷、特徴や関係団体などについて、綿密な聞き取り調査を行い、多くの統計資料を活用しました。あらためて「こんな産業もあったのか」と感じたり、首里王府によって管理されてきた山の存在と、自然を利用してきた人々の知恵などを知ることができます。

また、那覇や首里の市場、宜野湾や中城へつながる道は、流通経路として利用されています。産業編では、これら旧道や流通手段であった荷馬車や軌道などの追跡調査も行っています。

もちろん、明治時代から

大型の製糖工場が立地していた西原のさとうきび作と製糖業についても詳しく述べられています。

「那覇に近い農村」であった西原の産業をまとめたこの一冊、ぜひ町民のみなさんには手にしていただきたいものです。



新たに発刊された産業編

■販売価格 一五〇〇円

(送料三八〇円)

今後も、「西原の方言」や「西原の教育・人物」など全十四巻の発刊に向け、がんばっていきますので、町民のみなさんのご協力よろしくお願いいたします。

【おわびと訂正】

先月掲載しました「新川嘉徳」の名前の読み方に関して、地元小那覇では「よしのり」ではなく「かたく」であるという指摘をいただきました。ここにいわびと訂正をいたします。